

テーマ

「子どもとおとなをつなぐ街づくり」

目 標

地域と学校園が連携・協働し、子どもが参画する取組の充実

今年度の取組紹介

3年前から始めた羊の放牧をきっかけに、羊プロジェクトを立ち上げ、子どもと地域のおとなが一つのものづくりを分業し、時には協働して作り上げる取組を進めています。昨年度は、中学校のクラブデザイン部の生徒と材料の準備と販売体験をしました。今年度は、さらに活動を広げるために、幼稚園と校区内にある県立奈良西養護学校に企画を持ち込み、園児たちが描いた羊の絵をマスコット販売のパッケージデザインに使い、養護学校の生徒たちとは、洗い上げた羊毛のごみ取り作業や、マスコットキットのための羊毛計量とパッケージ詰めをボランティアの方々と一緒に作業をしました。

また、小学生は、羊の名前の募集を飼育委員が行い、夏休みに開催した子どもプロジェクトで『めえめえ（命名）式』を行いました。マスコットの販売体験は、地域のイベントや公民館まつりで中学生、養護学校の生徒が体験を行うことができました。羊を通して地域と学校園と子どもたちが繋がる取組ができました。



今年度のまとめ

年度途中から、登録ボランティアに配布していた学校支援情報を地域回覧も始めたことで、ボランティアに参加する人材が広がりだしました。また、学校敷地内の除草を目的とした羊の放牧で、子羊が生まれたことが話題となり、多くの地域の方が、小中学校に足を運んでくださるようになっていきます。いずれも地域理解が広がるきっかけになりました。また、学校が主体となった研修に地域住民が参加し、学校支援について共に学んだことで、目指す子ども像を共有し、それぞれの理解が進み、今後の課題が見えてきました。支援の多くが一方的な活動になっており、これからは、子どもたちが地域へ出向くことが必要だと考えています。また、学力保障（小中学生の放課後学習）の必要性も感じています。

来年度に向けて

さらなる広報の充実をし、地域理解を広げ、支援人材の確保をしていきます。また、地域のイベントに子どもたちが企画の段階から参加できるように、各団体との情報交換を密に行います。子どもとおとなが協働する機会も増やし、それぞれが自己有用感を味わえる取組にしていきます。

テーマ

地域とともに推進する小中一貫教育

目 標

「小中一貫」と「地域の支援」を両輪とした教育推進基盤をさらに充実させ、主体的・協働的に学ぶ意欲と豊かな心を持つ児童生徒を育成する。

今年度の取組紹介

本校と姉妹校として交流を続けているオーストラリア・ハリソンスクールから、総勢22名の生徒や保護者を迎えました。地域の方々には通訳やホストファミリーや通訳などご協力いただき、授業体験や日本の家庭での生活体験など、有意義な交流ができました。

奈良西養護学校を会場に行われた帝塚山地区自治連合会主催の第8回ふれあい文化交流会や富雄公民館まつりに地域教育協議会が出店し、昨年度同様、中学校クラフトデザイン部の生徒がマスコットづくりのインストラクターとなって、お客様にマスコットを作っていただくお手伝いをするなど、好評をいただきました。中学生とボランティアが協働でき、地域の方々との交流が深まった、大変有意義な1日になりました。



今年度のまとめ

地域教育協議会が生まれて6年、年を追うごとに、地域と小中学校との結びつきが強まってきました。環境整備支援、読書活動推進、学習支援、キャリア教育への支援の他、部活動の見守り活動等、多くのボランティアが参加してくださっています。子どもたちと地域の方々とは出会い、ふれあい、多くの経験をすることで、大人も子どももこの地域の中での存在意義を強く意識することができました。また、「めざす子ども像」について学校と地域との話し合いの機会をもって「思い」を共有したことは、小中一貫教育推進の大きな推進力となりました。一方、多くの方にボランティア登録していただきながら、参加していただく機会が少ないことは大きな課題であると考えています。

来年度に向けて

地域の方々やボランティア、保護者、教員に「学校支援情報」と「ボランティアカレンダー」の配布やホームページによる広報を継続しながら、学校もボランティアもともに「良かった」と思えるような活動内容と、十分な活動機会を設けるように工夫改善を進めていくことが大切だと考えています。

学校と地域が連携をより密にして、子どもとおとなが協力・協働する場を模索し、おとなも子どもも自分たちが「地域の中で役に立っている。」と思えるような取組にしていくために力を注ぎます。

テーマ

地域とともに推進する小中一貫教育

目標

「小中一貫」と「地域の支援」を両輪とした教育推進基盤をさらに充実させ、主体的・協働的に学ぶ意欲と豊かな心を持つ児童生徒を育成する。

今年度の取組紹介

学校北側斜面に放牧している羊の毛を刈る体験、羊毛の洗浄とマスコット作りなどを行ってってきた「羊プロジェクト」を、借り受けている羊が出産したことを契機に「命」の学習という要素を取り入れて発展させました。

夏休みには、これまでの毛刈り体験に加え、小学部の飼育・園芸委員会が中心になって、本校で産まれた羊も含めた「命名（めえめえ）式」を企画・実行しました。その際羊たちの首にかけの名札の製作を中学部のクラブデザイン部が担当したほか、子羊を含めた三頭の羊たちを見るために多くの方が学校を訪ねられ、また野菜くずを持ち寄ってくださるなど、小学部の児童が中心であった羊プロジェクトに中学部の生徒や地域の方々が数多く関わる形ができてきました。



今年度のまとめ

地域教育協議会が生まれて6年、年を追うごとに、地域と小中学校との結びつきが強まってきました。環境整備支援、読書活動推進、学習支援、音楽教育支援、特色ある教育事業の他、登下校時の見守り活動にも多くのボランティアが参加してくださっています。子どもたちと地域の方々とが出会い、ふれあい、多くの経験をすることで、大人も子どももこの地域の中での存在意義を強く意識することができました。また、「めざす子ども像」について学校と地域との話し合いの機会をもって「思い」を共有したことは、小中一貫教育推進の大きな推進力となりました。一方、多くの方にボランティア登録していただきながら、参加していただく機会が少ないことは大きな課題であると考えています。

来年度に向けて

地域の方々やボランティア、保護者、教員に「学校支援情報」と「ボランティアカレンダー」の配布やホームページによる広報を継続しながら、学校もボランティアもともに「良かった」と思えるような活動内容と、十分な活動機会を設けるように工夫改善を進めていくことが大切だと考えています。

学校と地域が連携をより密にして、子どもとおとなが協力・協働する場を模索し、おとなも子どもも自分たちが「地域の中で役に立っている。」と思えるような取組にしていくために力を注ぎます。

テーマ

笑顔いっぱい！子どもとおとなをつなぐ園づくり

目標

- ・ 地域の人や様々な人とのかかわりを大切にする
- ・ 子どもが喜ぶ魅力のある未就園児保育の部屋作り

今年度の取組紹介

園内整備

昨年度に引き続き、園内の固定遊具や園舎の気になるところのペンキ塗りを行いました。今年度は手洗い場、ジャングルジム、砂場のログハウスを中心に、地域の方々、保護者、職員で取り組み、見違えるようにきれいになった遊具に子どもたちからしぜんと「すごいピカピカになってる」「ありがとう」の言葉が聞かれました。感謝の気持ちと身近な環境を整える大切さを感じました。



(環境整備 ペンキ塗り)

未就園児保育（3歳児）

子育て支援のひとつとして、毎月1回、未就園児（3歳児）が親子で登園して来ます。未就園児は、園児と一緒に遊んだり、お弁当を食べたり、ふれあい遊びをしたりして幼稚園の生活を体験します。在園児も、お姉さんお兄さん振りを発揮して「ここで手を洗うよ」「何して遊ぶ」と教える姿が見られ、相手を思いやる優しい気持ちや自信にもつながってきています。毎回、地域ボランティアの方々に来ていただき、受付で名札を渡したり、子どもたちの安全面の見守りをしたり、保護者の話を聞いたり、子育ての支援につながっています。



(一緒に玉入れ)

今年度のまとめ

- ・ 地域の方や保護者に協力していただき、幼児たちは文楽公演、わくわく農園の収穫、やきいもパーティ、おもちゃつきなど様々な感動体験を味わうことができました。
- ・ また地域の行事への参加により、幼稚園の子ども達の様子を広く地域の人たちに知ってもらえる機会になっています。小中学校はじめ未就園児・保育園との交流、奈良西養護学校や近大生など様々な人たちとふれあいを重ねることにより、人とのかかわる楽しさを味わうとともに、相手の気持ちや温かさに気づき、やさしさや思いやりの心が育っています。
- ・ あいさつにおいても、友達や先生に積極的にあいさつをし、幼稚園に来ていただいた地域の方にも進んであいさつする姿も見られるようになりました。

来年度にむけて

- ・ 小中学校・未就園児・保育園・養護学校との交流や、地域行事への参加（夏祭り・ふれあい文化交流会等）など様々な人たちとかかわりを大切にし、コミュニケーション能力の芽生えを培います。
- ・ しなやかな心と体づくりを目標に、広い園庭の環境を生かし戸外で全身を動かして遊んだり、親子でふれあい体操をしたりします。
- ・ 地域の方々が、園の活動に気軽に参加していただけるように支援を具体的に依頼して、活動を実施したいと思います。